

美星スペースガードセンターにおける小惑星探索観測

Asteroid search observations in the Bisei Spaceguard Center

奥村 真一郎 [1]; 浅見 敦夫 [2]; 橋本 就安 [3]; 中野 主一 [2]; 西山 広太 [4]; 大島 良明 [3]; 浦田 武 [3]; 磯部 三 [5]; バッターズプロジェクト 磯部 三 [6]

Shin-ichiro Okumura[1]; Atsuo Asami[2]; Nariyasu Hashimoto[3]; Syuichi Nakano[2]; Kota Nishiyama[4]; Yoshiaki Oshima[3]; Takeshi Urata[3]; Syuzo Isobe[5]; Isobe Syuzo BATTeRS Project[6]

[1] JSGA; [2] 日本スペースガード協会; [3] J S G A; [4] ジェイエスジーエー; [5] 国立天文台; [6] -

[1] JSGA; [2] JSGA; [3] JSGA; [4] JSGA; [5] NAO; [6] -

<http://www.spaceguard.or.jp/ja/index.html>

探査機「はやぶさ」はご存知のように、小惑星「イトカワ」へ接近して詳細な観測を実現したのみならず、「イトカワ」への着陸も成功させ、試料採取にも成功するなど、多くの新しい科学成果の得られることが期待される。

一方、太陽系始原天体に関する国内外における将来の探査ミッションの計画を有効に遂行させるためには、小天体についての豊富なデータベースを提供することが必要である。そのためには、地球近傍天体 (NEO) やメインベルト小惑星、エッジワース・カイパーベルト天体 (EKBO) 探索のための地上観測を進めてゆくことが重要と考えられる。特に、「はやぶさ」の次のミッションを成功させるためにより多くの地球近傍小惑星 (NEA) について軌道を把握しておくことが重要であり、そのために NEA の探索と軌道決定のための観測が必要である。

美星スペースガードセンターは 2000 年の開所以来、NASDA (現 JAXA) と協力し、人工衛星や宇宙デブリの軌道決定のための光学観測を行うとともに、NEA をはじめとする NEO の探索観測を行ってきており、アポロ型特異小惑星で 2 番目に明るい 2000UV13 を発見した他、新しい小惑星を 78 個発見するなど、成果を上げている。また、さらに成果を上げることを目指し、観測システムについて様々な改良を進めている。

ここでは、美星スペースガードセンターにおける光学観測を中心とする日本スペースガード協会の活動について紹介する。